平成２２年度病害虫発生予察注意報第４号

平 成 ２ ２ 年 ９ 月 ８ 日

発表：福島県病害虫防除所

１　対象作物：モモ

２　病 害 虫：せん孔細菌病（春型枝病斑）

３　対象地域：県内全域

４　発 生 量：やや多い

予報の根拠

１　モモせん孔細菌病の新梢葉での発生は、伊達地域では６月下旬以降、福島地域では８月上旬以降増加した（図１、図２）。

２　本病原菌は、９月以降に落葉痕から新梢の皮部組織の細胞間隙に病巣をつくって潜伏越冬する。越冬した病原菌は、翌春に春型枝病斑を形成して重要な伝染源となる。

　福島・伊達地域とも８月下旬の新梢葉での発生ほ場割合は、平年並であったが、伊達地域では発病葉率「中」以上のほ場割合が高く、発病程度が平年より高かった（図３）。

３　９月上旬～10月中旬に降水量が多いと新梢葉からの感染により、翌春の春型枝病斑の発生が多くなる傾向がある。

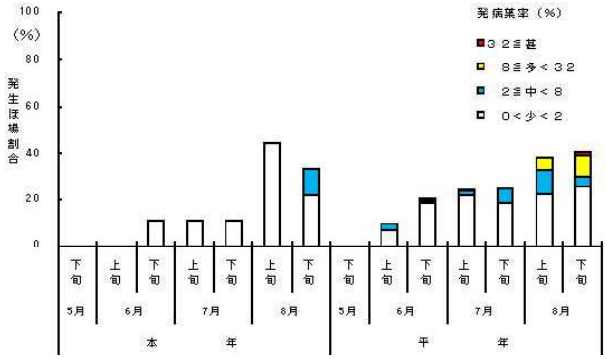

図１　福島地域における新梢葉での発生経過

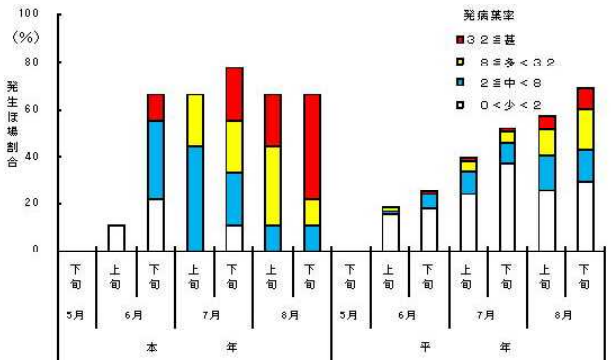

図２　伊達地域における新梢葉での発生経過

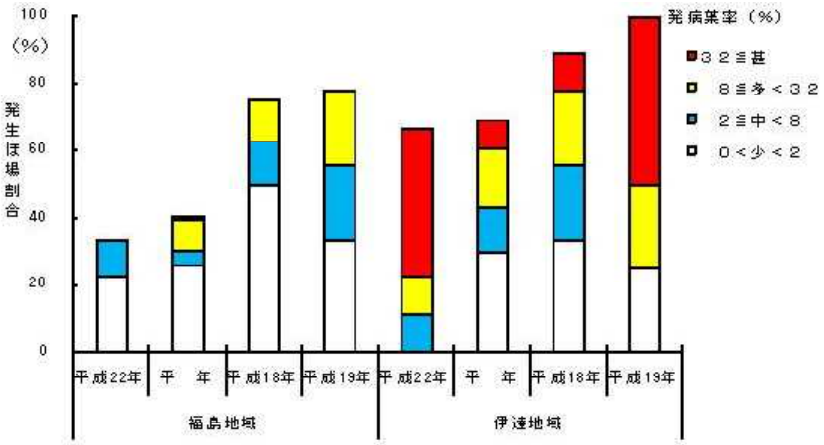

図３　８月下旬の新梢葉での発生状況

防除対策

１　越冬病原菌密度の低下を図るために、収穫終了後、９月上旬～10月上旬にかけて秋季防除を２回実施する。新梢葉や果実での発生の多かったほ場では、収穫終了後～落葉前までに３回防除して感染を防止する。

また、１回目の防除が遅れないように、収穫が終了したほ場から防除を開始する。

なお、台風等の強風による落葉が多かった場合には、落葉痕からの感染が多くなるのでできるだけ速やかに防除する。

２　防除薬剤は、4-12式ボルドー液またはＩＣボルドー 412　30倍を使用する。

なお、９月中旬以降に散布する場合は、 4-12式ボルドー液またはＩＣボルドー 412にかえて、クレフノン 100倍加用コサイドＤＦ 1,000倍（収穫後から落葉まで）を使用してもよい。なお、本剤は高温時等の散布で落葉等の薬害を生じることがあるので注意する。

●　薬剤の濃度のアンダーラインは、登録内容の希釈濃度に幅がある場合であり、平成22年版福島県農作物病害虫防除指針で採用している濃度です。

●　情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部　発生予察課（病害虫防除所）までご連絡ください。 電話　０２４－９５８－１７０９　ＦＡＸ　０２４－９５８－１７２７

●　本情報は、福島県病害虫防除所ホームページ　http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html でもご覧になれます。